

◆ 実戦問題 43 ◆

(宮中に仕える * 小督 という女房には、冷泉少将 という恋人がいた。しかし小督は帝に召されてしまう。)

小督殿、「われ君に召されむうへは、少将 いかにいふとも、言葉をもかはし文を見るべきにもあらず」とて、* つてのなさを [] もかけられず。少将 * もしやと一首の和歌を詠うで、小督殿のおはしける御簾の内へ投げいれたる。

* 思ひかね心はそらにみちのくの千賀の塩釜 近きかひなし

小督殿、(1) やがて返事もせばやと思はれけれども、* 君の御ため御うしろめたうや思はれけむ、手にだに取っても見給はず。* 上童に取らせて * 坪のうちへぞ投げ出だす。少将 なさけなう恨めしけれども、人もこそ見れと (2) そら恐ろしう思はれければ、急ぎこれを取ってふところに入れてぞ出でられける。なほたち帰って、

* たまづさを今は手にだに取らじとやさこそ心に思ひ捨つとも

今はこの世であひ見むこともかたければ、生きてものを思はむより、死なむとのみぞ願はれける。

設問

問1 空欄にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① さへ ② だに ③ のみ ④ まで

問2 傍線(1)を現代語訳せよ。

問3 傍線(2)において、少将は何を「そら恐ろし」と思ったのか。具体的に説明せよ。

問4 「思ひかね…」の和歌の修辞について、正しいものを次の中から二つ選べ。

- ① 「思ひかね」は「心」を導く枕詞である。
 ② 「そらにみち」は「塩釜」を導く枕詞である。
 ③ 「思ひかね心はそらにみちのくの」は「塩釜」を導く序詞である。
 ④ 「みちのくの千賀の塩釜」は「近き」を導く序詞である。
 ⑤ 「みち」は、「満ち」と「陸奥」の「みち」の掛詞である。
 ⑥ 「千賀」は、地名の「千賀」と「近き」の「近」の掛詞である。

問5 「たまづさを…」の和歌に込められた少将の心情として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

- ① 私を好きだというのなら、手紙はちゃんと受け取ってほしいと頼む気持ち。
 ② 私を忘れてしまったとしても、手紙くらい手に取ってほしいと恨む気持ち。
 ③ 私を好きかどうか、手紙を受け取ること示してほしいと懇願する気持ち。
 ④ 私を嫌いだというのなら、手紙を捨てるのも仕方ないとあきらめる気持ち。

出典

『平家物語』巻六「小督」

『平家物語』は、p.106 参照。

* 小督 藤原通憲の孫で、桜町中納言成範の娘。

* つてのなさけ 人を仲介しての思いを伝える言葉。人づての情けの言葉。

* もしやと もしかして返事をもらえるかと思つて。

* 思ひかね心はそらにみちのく 恋しい思いに耐えかねて、心は上の空で、空に満ちるほどで。

* 千賀の塩釜 陸奥の国にあった地名。現在の宮城県塩釜市の松島海岸の南西にある「千賀の浦」を指す。

* 君の御ため御うしろめたう 帝に対して心やましいと。この「君」は高倉天皇を指す。

* 上童 宮中で使われている少年少女。ここは少女。

* 坪 中庭。

* たまづさ 手紙。

単語チェック

- ☑ 召す 動 サ四
 ☑ やがて 副
 ☑ うしろめたし 形 ク
 ☑ かたし 形 ク